

光鯨会だより

第38号 [令和7年8月]

発行 | 光鯨会
会長 | 小野 徹郎 (S43)
本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)
連絡先 | 濱田 晋一 (DH22)

✉ koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp

HP | <http://koukokai.jp/home>

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内
()内の数字は卒業年次を示します。またM:修士、D:博士 での卒業になります。

I | 会長挨拶

□会長挨拶 「垣根のない世界」

小野 徹郎 (S43) 光鯨会会長／名古屋工業大学名誉教授



新緑もすっかり色濃くなり暑い季節を迎えましたが、会員の皆様にはそれぞれのお立場でご活躍のことと思います。

5月には本部役員のおかげで光鯨会評議委員会、総会を無事終了することができました。関東支部、関西支部からもご出席いただき有益な意見交換ができましたこと感謝しております。有り難うございました。また見学会では母校の伊藤孝紀先生が関わられた鶴舞のイノベーション拠点「Station Ai」を見学することができました。その設計コンセプトと現状の説明をいただき、社会と建築の繋がりの重要性が理解でき、とても有意義な時間を持てましたことに改めて感謝いたします。その後の懇親会では渡辺誠一先輩(1961年卒)をはじめとして久しぶりの方々のお顔を拝見してとても楽しい時間を過ごせました。年齢を超えてなんの垣根もない同窓の集まりは楽しいものです。

世界ではトランプ大統領の身勝手な振る舞いが世

界中を混乱の渦に巻き込んでいます。自国の利益のみを追求する関税強化、移民に対する規制、アカデミズムに対する規制など、とても考えられない施策が次々と出されています。その根底にあるのが「DEI」への反発です。多様性(D)、公平性(E)、包摂性(I)はこれからの世界では最も重要で必要な理念だと思いますが、トランプ大統領にとっては最も毛嫌いの理念なのでしょう。我が国でも学会会議に対する規制を含む法案が難く国会を通過しているのは嘆かわしいことです。

本学建築学科は、卒業生の努力とその繋がりで日本の建築界で確固たる立場を形作ってきました。120年にも亘る伝統は個々のささやかな努力と継続の積み重ねの結果であると思います。光鯨会は何んの遠慮もない、隔たりもない集まりです。こうした集まりこそが理想とする世界をつくる核になると思います。

毎号同じお願いですが、光鯨会の活動は皆様の会費で運営されています。是非、今後とも会費の納入をよろしくお願い致します。「母校が輝き」「卒業生が輝き」結果として「世界が輝く」ことになることを願ってやみません。

II | 大学は今

□分野長挨拶 近況報告

北川 啓介 (H8) 建築・デザイン分野長／名古屋工業大学教授



建築・デザイン分野(旧・建築学科)分野長を務めております北川啓介です。名工大建築・デザイン分野は、今年で創設から120周年という大きな節目を迎えます。

明治時代の産業近代化とともに歩み始めたこの学び舎は、日本の建築教育の黎明期から連綿と続く歴史をもち、多くの優れた人材を輩出してまいりました。時代が変わろうとも「ものづくり」「ひとづくり」「未来づくり」、そして、「活きた教育」「活きた研究」「活きた課題」に真摯に向き合い、社会の期待に応え続けてきたこの分野の歩みを振り返るとき、今ここにいる私たち一人ひとりがその歴史の延長線上にあることに、深い感慨と誇りを抱かずにはられません。

まずは、光鯨会の皆様が長年にわたり、本学の現役学生に多大なるご支援をくださっておりますこと、深く感謝申し上げます。在学中の学生への温かなお力添えはもちろん、就職活動においても、名工大建築・デザイン分野ならではのネットワークが今も活かされております。教員としては、学生には「自分が本に行きたいところだけを第一希望としてもらえば十分です」と伝えておりますが、それが実際に就職まで叶っているのも、光鯨会の皆様のご支援の賜物です。卒業後にも、国内外の設計事務所や企業、大学など、様々な現場で本学の卒業生が活躍し、協働の輪が広がっていることを、大変嬉しく感じております。(より詳細な内容は二次元コードへ)



私の名前はアンナローサ・レティエーリ (Annarosa LETTIERI) です。2025 年 4 月 1 日付けで名古屋工業大学 (NITech) の建築・デザイン分野に助教として着任しました。私はイタリアのチレント地方にある小さな町、サン・マウロ・ラ・ブルーカ (人口約 500) の出身です。この地域は歴史的な村々や、イタリアのトップクラスのビーチとして知られるパリーヌロ (Palinuro) 近くの美しい海岸線で有名です。私はサレルノ大学 (UNISA: 1968 年に州立大学としてスタート。ただし、大学の起源は 9 世紀以前の医学校とされている) で学び (学生数 3 万 5 千人弱)、昨年の 9 月に博士課程を修了し、PhD を取得しました。博士課程在籍中に、佐藤篤司教授との国際共同研究の実施、および指導を受けるために、名古屋工業大学に 2 ヶ月間特別研究生として訪問する機会がありました。

私の研究は、鉄骨構造システムに適用可能な交換可能かつ自己復元力特性を有する革新的エネルギー消散デバイスの開発に焦点を当てています。私は、学術研究と教育の国際化、そして異文化間の知識交流を促進するために、海外の大学との連携に情熱を持っています。ここでの活動を通じて、イタリアと日本のより緊密な協力関係を築いていきたいと考えています。

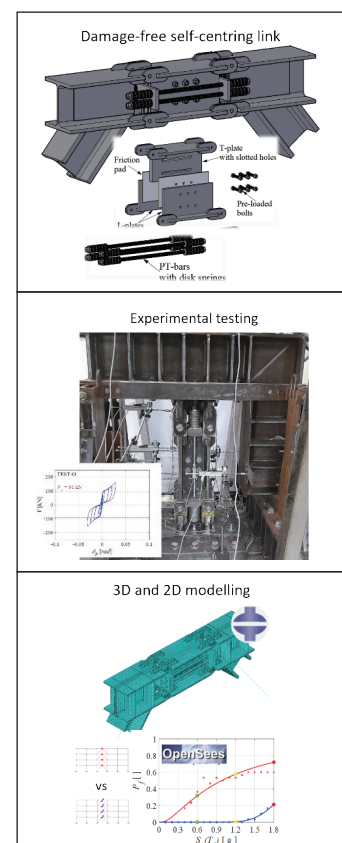


添付写真は、私の故郷である Cilento の風景、卒業大学が位置する Salerno 市、および UNISA のキャンパスです。

My name is Annarosa Lettieri. As of April 1, 2025, I was selected as an Assistant Professor in Architecture and Design at Nagoya Institute of Technology (NITech). I am from San Mauro la Bruca, a small town in the Cilento region of Italy with a population of about 500. This area is known for its historic villages and beautiful coastline near Palinuro, which is famous as one of Italy's top-class beach destinations. I studied at the University of Salerno (UNISA), officially established in 1968, with roots in one of the oldest medical schools, dating back before the 9th century. Today, it serves about 35,000 students. I completed my doctoral program and obtained a PhD in September last year. During my doctoral studies, I had the opportunity to visit NITech as a special research student for two months to conduct international joint research and receive guidance from Professor Atsushi Sato.

My research focuses on developing innovative energy dissipation devices for steel structural systems with replaceable and self-centring characteristics. I am passionate about promoting internationalization in academic research and education and facilitating intercultural knowledge exchange through collaboration with overseas universities. I hope to help build a closer cooperative relationship between Italy and Japan through my work here.

その他に添付する写真は、博士論文で対象としたデバイスである。それぞれは、デバイスの構造要素モデル概念図、実部材実験の様子 (UNISA で実施)、そして有限要素法解析を用いた数値シミュレーションの結果です。数値計算のみならず、実験での実証も同時に実施することで提案するデバイスが期待通りに性能を発現することを確認しました。



□卒業生の活躍

米澤 隆 (H19) 大同大学准教授

2014 年 3 月に博士後期課程を修了しました。現在は大同大学において研究と教育に携わるとともに、米澤隆建築設計事務所を主宰し設計活動にもあたっています。2025 年日本国際博覧会休憩所他設計プロポーザルにおいて優秀提案に選定され、現在開催中の Expo2025 大阪・関西万博におけるトイレ 5 を設計・監理いたしました。本万博における重要なキーワードである「いのち（生命）」を建築のコンセプトの根幹に据え、1970 年大阪万博にて花開き終焉を迎えたと言われている建築思想「メタボリズム」を、55 年の時を経てアップデートし再びこの大阪の地にリバイバルさせることを目指しました。積み木のようにユニットを積み重ねることで建築を構築する仕組みにより、閉会後はユニット単位に解体し、公園や広場などに移設し、その場に必要となる数や形に組み換えることができる計画です。ユニットはそれぞれ、1 段目はトイレとしての機能を有し、2 段目は採光・換気・開放感といった環境を調整する機能を有し、3 段目は雨や日射を遮蔽し待機列のための屋根としての機能を有します。また、様々な機能や形や色のユニットを緩く連帯させなが

ら共存させることで、会場デザインコンセプトである「多様でありながら、ひとつ」をデザインしています。在学時、学部と修士課程でご指導いただきました堀越先生から環境や日本観について、博士課程でご指導いただきました北川先生から多義性や仕組みのデザインについて薫陶を受けましたが、本建築のコンセプトの源流になったと感じています。先生方からいただいた教えに感謝しつつ、その教えを発展させ次の世代に受け渡していければと考えています。



□学生の活躍

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

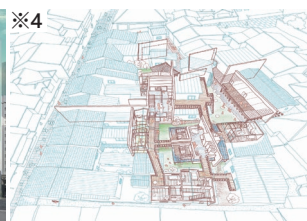
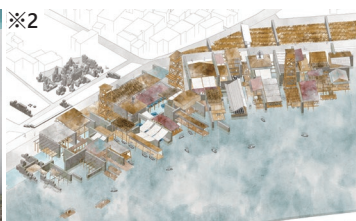
2024 年度の学生の特に優れた活躍を報告いたします。

卒業設計・制作…田尻翔吾くんが光鯨会賞を受賞、6 作品が佳作に選出されました。優秀作品は、日本建築学会全国巡回展などへ推薦されました。創造性と実践力を兼ね備えた提案が高い評価を得ました。

学内外での活躍…ヒューリック学生コンペ、AICHI WOODY AWARD などにおいて成果を収めました。また、新聞・ラジオ・専門誌での紹介、研究面では、日本建築学会東海支部、日本仕上学会、日本基礎造形学会、日本コンクリート工学会での受賞など、多方面での活躍が光ります。学内では創造工学生が創南洋理工大学との国際ワークショップに取り組みました。

光鯨会学生奨励賞…学業成績に優れた 17 名が表彰されました。学生のさらなる飛躍が期待されます。

■ 光鯨会賞 | 田尻 翔梧※1 ■ 佳作 | 伊藤 愛恵、可兒 鮎彩、川瀬 大雅、坪井 玄光、中野 葵、別所 輝 ■ 日本建築学会全国巡回展出展 | 田尻 翔梧 ■ 近代建築社『卒業制作 2025』掲載 | 佐方 峻吾※2 ■ 愛知建築士会学生優秀作品展出展 | 石原 郁花 ■ 日本インテリア学会卒業作品展出展 | 渡邊 香帆 ■ インテリアプランナー協会賞 | 鶴崎 悠李 ■ 赤れんが卒業設計展 2025 100 選 | 佐方 峻吾 ■ NAGOYA Archi Fes 2025 鈴木賞 | 佐方 峻吾 ■ 第 12 回ヒューリック学生アイデアコンペ優秀賞 | 加藤 拓実・甲斐 彩華・河野 裕翔・都筑 祐人・谷藤 拓海※3 ■ 歴史的空間再編コンペティション 2024 30 選 11 位 | 甲斐 彩華・加藤 拓実・河野 裕翔※4 ■ AICHI WOODY AWARD 2024 佳作 | 山本 純平 ■ 第 55 回毎日・DAS 学生デザイン賞 金の卵賞 | 山本 純平 ■ 建通新聞 (中部) 記事掲載 | 武藤 玄樹 ■ ZIP-FM「SUPER CAST」取材 | 武藤 玄樹 ■ 2024 年度日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞 | 中原 綾音 ■ 2025 年日本建築仕上学会奨励賞 卒業研究賞 | 酒徳 拓実 ■ 日本基礎造形学会第 35 回大会若手研究発表賞 | 所 承太郎 ■ 日本コンクリート工学会 第 46 回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞 | 佐藤 黎 ■ 2024 年度光鯨会学生奨励賞 | 矢尾 ともか、永野 なな子、渡邊 久美子、瀬尾 尚弥、須田 樹、安井 敦、長浜 颯哉、本多 航大、内藤 乃麻、渥美 優、清水 幹太、安井 美朝、神山 歩、成田 一真、佐方 峻吾、渡邊 大誠、山田 起行 (敬称略)



III | 卒業生は今

小田 祐司 (H21) (株)安井建築設計事務所

大学院を卒業後、組織設計事務所に入社し、意匠設計者としての道を歩み始めてから気付けば 17 年目となりました。入社後は、民間・公共を問わずに様々な用途に取り組む機会を与えていただき、これまでに 10 種を超える建物用途の設計に携わらせていただきました。特定の用途の専門性をより高めていくことも大切なことですが、個人的には異なる用途に取り組むたびに設計者としての知見が広がり、新たな発見を得られることに喜びを感じています。

完成した建物には正解や不正解がある訳ではなく、第 3 者による評価がその建物の存在価値を形作っていくと考えています。そのため設計時は答えのない問いを解き続けている感覚に陥る時もありますが、だからこそ、建物が完成した後に建築主や利

用者の方々から「あなたに設計してもらって良かった」と言ってもらえる設計者でありたいと考えています。これからもこういった信念を大切に、私達の子供や孫の世代まで愛され続けるような建物を設計していきたいと思っています。



木やレンガなどの自然素材を用いた精神科病棟

川津 早季 (H29) 鹿島建設(株)

修士課程修了後、鹿島建設に入社して 7 年が経過しました。この間、育児休暇を取得しながら約 5 年間現場で施工管理に従事し、現在は 4 件目の物件を担当しています。

最初に配属された現場は事務所兼テレビスタジオという特殊な建物でした。右も左も分からない中、先輩についていくのが精一杯で、任された工種に全力で向き合った 1 年目でした。

次の物件では、約 1 年半の工期で着工から竣工までを経験しました。企業のデザイン部門オフィスで、施主の要望が高く、内外ともに打ち放し仕上げが求められる難易度の高い建築でした。竣工式で施主から感謝を受け、この物件がグッドデザイン賞を受賞

し、新建築に掲載された際には大きな達成感を得ました。

3 件目の現場は、短工期・ローコストの RC 造建物で、14 ヶ月の工期内に施工を進める目まぐるしい日々でした。後輩も加わり、計画立案やコスト管理を担当し、責任を持つことでさらなるやりがいを感じました。

現在は育児との両立を図るため、現場管理業務から計画業務中心のデスクワークに移行しています。計画を練るやりがいを感じる一方、後輩への伝達の難しさも実感しています。これまでの経験を活かし、新たな挑戦を続けたいと考えています。

位田 健太 (H28) トヨタホーム(株)

修士課程の修了後、2018 年にトヨタホーム (株)へ入社しました。以降は戸建住宅に携わる部署をローテーションしており、構造外装部材の設計業務 2 年、商品企画業務 2 年、販売店での設計業務 3 年を経て今年度で 8 年目となりました。

現在は一次取得層へ向けた企画型住宅の企画・設計を行っています。単に企画型と言いつつも、どのような間取りが流行なのか、トヨタホームらしいと感じてもらえる外観・内観は何か、コスパやタイパが叫ばれる昨今にあって効率・お客様満足度ともに高い商談手法がないか…など、考えることは多岐に渡ります。時には現場へ赴き、またある時には図面とにらめっこしながら試行錯誤を重ねる毎日です。思案に暮れる場面も多くありますが、周囲に在籍している多くの名工大 OBOG の活躍にエネルギーをも

らい、日々を送ることができています。

トヨタホームは今年、事業開始から 50 年の節目を迎えました。これまで積み重ねられた知見を活用し、次の時代へ向けた暮らしの提供・暮らし方の提案に貢献できればとの思いで業務に取り組んでいます。



企画型戸建商品：SINCE BISS

H30に学部を卒業後、建築職として愛知県庁へ入庁しました。今年度で採用8年目を迎え、現在、公営住宅課に所属しております。ここでは、県営住宅建替事業等の営繕計画策定や国の補助金を活用する県内市町村の指導監督業務を行っております。

現在の部署は入庁してから4部署目になり、それまでは、県立高校や警察署、交番等の公共施設の営繕業務、建築基準法や都市計画法における許認可業務に従事してきました。



県営東浦住宅イメージパース

建築分野における行政の役割は多岐に渡り、愛知県には建築関係部署が多くあるため、異動するたびに慣れない業務に取り組むことは大変さもありますが、建築に関する幅広い知識と経験を身に付けることができ、充実感が得られ、やりがいも感じます。

愛知県庁は広域的な地方公共団体であり、その中で建築職は、県営住宅を含めた公共施設全般の「防災対策」「環境対策」、アジア競技大会に向けた会場施設（IGアリーナ等）やジブリパーク等の整備を含めた「産業振興」、県立高校の改修や特別支援学校建設の「教育振興」等、県民の暮らしに関わる様々な取組を進めています。今後もこれらの取組に対して、一層精進していきたいと思っています。

吉岡 舞 (H28) トヨタ自動車(株)

修士課程終了後、2018年にトヨタ自動車(株)へ入社し8年目となりました。この間、事務棟・実験棟の改修に加えて、データセンターや寮のエネルギー分析等様々なプロジェクトに携わらせていただくとともに、水素スタックの研究開発および製造拠点の建設プロジェクトで北京へ1年半研修で行かせていただきました。

北京への赴任は2021年、コロナ渦中でしたので入国後3週間のホテル隔離や、毎日のPCR検査、マンション隔離など私生活でもチャレンジングな環境でした。プロジェクトとしても、弊社における海外初の水素拠点であったり、設計院・ゼネコンともに現地企業であったりと非常に難易度が高かったで

すが、上司や先輩にご指導いただきながら自分が設計から携わった建物が形になっていく様に非常にやりがいを感じました。赴任中は日々に必死でしたが、振り返るととても成長させていただいたと実感します。

現在は5月よりウーブン・バイ・トヨタ(株)へ兼務出向し、自身が経験する中では最大規模の物件の担当となりました。自動車業界が100年に一度の変革期を迎えており、会社としてモビリティカンパニーへの変革を目指す中、変わりゆくモビリティと建築関係性や未来の普通とは？と想像を膨らませながら日々業務に邁進しております。

□会員の日本建築学会各賞受賞、作品選集掲載

○2025年日本建築学会教育賞(教育貢献)

『左官ものづくり教育プログラムの開発と実践』 宇野 勇治 (愛知産業大学教授)

○2025年日本建築学会作品選奨

『日本女子大学百二十年館・杏彩館』 妹島 和世 (妹島和世建築設計事務所代表)

○2025年日本建築学会奨励賞

『Experimental Study on Partial Compression Parallel to Grain of Solid Timber』 戸塚 真里奈 (千葉大学助教)

『圧縮力が作用する冷間成形溝形断面材の弾性ゆがみ座屈耐力と座屈挙動』 三井 和也 (東京科学大学准教授)

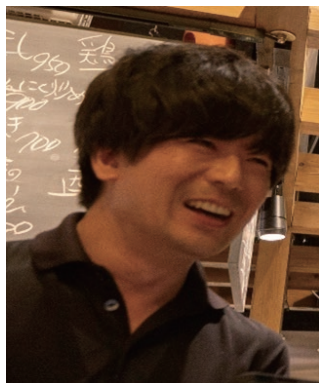
□2024年度年会費納入者、新規終身会員加入者、寄付者 2024/12/1～2025/6/20にお手配くださった方を記載(敬称略)

年会費納入者 [S46] 檜皮 幸男、堀井 國雄、[S48] 小林 真澄、[S50] 栗林 政道、[S52] 高木 郁生、中城 康彦、[S55] 古賀 靖廣、[S56] 久松 雄治、[S57] 田邊 太一、[S58] 石川 誠、小山 高夫、豊田 光利、[S59] 河原 典子、[S61] 渡辺 大海、[S63] 稲垣 勝弘、小林 明美、[H1] 吉口 勝史、[H2] 山根 正彦、[H3] 杉浦 盛基、[H4] 半谷 公司、[H5] 岩島 夏哉、柴崎 紳一郎、寺島 宜孝、[H6] 近藤 崇、田中 瑞己、[H9] 田中 秋水、中島 正人、[H10] 佐藤 篤司、水谷 恵子、[H16] 菅野 貴孔、[H18] 小澤 秀允、水野 秀昭、[H20] 柴田 篤宏、[H25] 山崎 航一、[H26] 小林 恵、戸塚 真里奈、[H28] 市井 暁、吉田 悠人、[H31] 服部 美衣、[R2] 板野 遥、加藤 彩花、津田 怜治、[R4] 石津 直人、坂田 美典、村雲 仁、[R5] 大田 海斗、[R6] 高野 翔、[R7] 井出 快人、棟保 輝哉、[MH7] 荒木 孝一、[DH25] 金田 美世 新規終身会員加入者 [S58] 渡邊 吉文 寄付納入者 [S34] 澤村 宏明、[S39] 高橋 宏之

※鯪ボックスへの寄付は随時受け付けております。

□関東支部

三井 和也 (H24) 東京科学大学准教授



2008年4月に建築・デザイン工学科に入学後、2017年3月に博士課程を修了するまで名古屋工業大学に在籍していました。博士課程修了後は日本製鉄の技術開発本部、2019年7月から東京科学大学（旧名称東京工業大学）で助教を務め、2024年12月から准教授になりました。

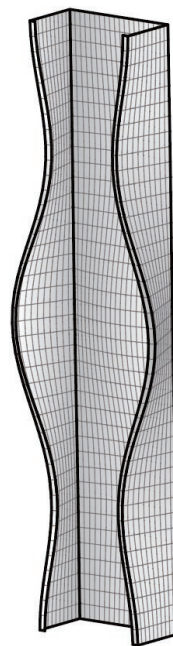
長年、工業大学という名称に誇りを持っていたのですが、大学統合により予期せず、「工業」という名称とはお別れとなってしまいました。

「圧縮力が作用する冷間成形溝形断面部材の弾性ゆがみ座屈耐力と座屈挙動」という論文で、2025年日本建築学会奨励賞を受賞いたしました。ゆがみ座屈とは右図のような形状の座屈現象であり、小野徹郎先生から、この座屈現象を定式化するのはかなり難しいというお言葉をいただいた記憶があります。

今回受賞した論文ではこのゆがみ座屈耐力の定式

化を行っています。実際に定式化に至るまでは数えきれないほどの数式展開の失敗がありました。定式化にこぎつけられたのは、研究室時代に粘り強く取り組むことの大切さを教えていただいた恩師の佐藤篤司教授には心より感謝いたします。「脳から血（汗？）が出るほど考えなさい。」という言葉が私の人生を大きく変えたと思います。また、座屈現象の面白さと理論を教えていただいた日本製鉄の北岡聡氏、ともに取り組んだ桑田涼平氏、論文に自身の思いや考え方をどのように載せるのかを教えていただいた東京科学大学の五十嵐規矩夫教授のおかげであります。このいただいた意思を次世代に繋いでいくことが私の使命であると思います。

最後に、日ごろから研究を応援していただいている家族、皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



□関西支部

阿野田 瑛二 (H25) (株)大林組

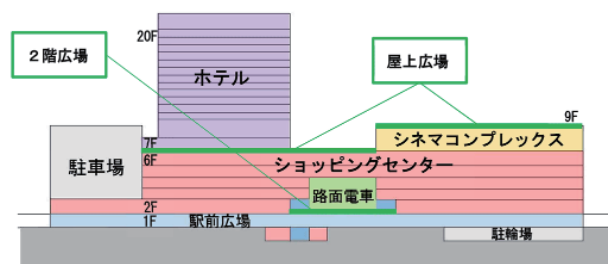
大林組に2015年に入社し、構造設計業務に携わること10年が経ちました。在学中はRC系である市之瀬先生の研究室に在籍していました。しかしながら、入社してからRC造の建物を設計する機会には恵まれておらず、RCを設計できる機会を望みつつ、日々業務をこなしております。

先日、自身が設計した広島新駅ビル minamoa（ミナモア）が開業しました。駅ビルの商業エリアは上層をホテルとする西棟とシネマを有する東棟の2棟から構成され、棟間の2階レベルで路面電車のホームが飛び込むダイナミックな空間構成となっています。路面電車が2階に停車することでJR側の連絡通路から直接アクセスすることができ、乗り換え時の利便性が向上しました。工事中は前面道路上空に線路橋を渡す状況がクローズアップされ、地元メディアが報じるなど注目度の高さが伺えました。

構造設計の目線では、路面電車上空の連絡通路が驚きの架構計画となっています。通路は30m無柱のロングスパン架構で、西棟側に設けたExp.Jにより地震時における棟間の変形差を吸収しています。そのため、東棟から伸びる30mの梁は西棟側ですべり支承に載せかける納まりとなっています。

最後になりますが、新駅ビル内にはお土産売り場

や飲食店も多く出店されています。広島を訪れた際はぜひお立ち寄りいただければと思います。



新駅ビルの構成（JR西日本ホームページより）



完成間近に訪れた時の写真（左：西棟、右：東棟）

IV | 光鯨会は今

□工業会 名古屋支部報告

宇佐美 智伯 (H6) 名古屋市役所

昨年度まで2年間、名古屋工業会名古屋支部の庶務幹事を務めさせていただきました。おかげさまで、滞りなく支部運営を終え、巴会（機械学科系）に事務局を引き継ぐことができました。光鯨会の皆さまのご協力、誠にありがとうございました。今年度の名古屋支部の企画については、右記のとおりとなっております。いずれの行事も基本的には名古屋エリア在住もしくは在勤の会員向けとはなりますが、今後の募集の際には、ふるってのご参加をお願いいたします。

令和7年度 名古屋工業会名古屋支部の行事

1 名古屋支部総会・講演会・懇親会

開催日: 令和7年6月21日(土)

場所: 名古屋工業大学内

講演内容: 「歩くことを楽しむ: 40年の歩行ロボット研究と歩行支援機開発」(名工大全学公開講座と共催)

2 見学研修会

開催日: 令和7年11月22日(土)

場所: トヨタ産業技術記念館などを検討中

3 東海地区新年互礼会

開催日: 令和8年1月10日(土)

場所: 名古屋工業大学学生会館

□本部だより

羽津本 好弘 (S60) 中電不動産(株)

今年度の評議員会、春の見学会、総会、懇親会の一連の行事は、5月17日(土)に開催されました。

評議員会は、13時から大学24号館1階会議室にて行われ、小野会長のご挨拶の後、井戸田本部長から、①昨年度事業報告・決算報告、②本部役員、③今年度事業計画・予算案について報告され、各議案ともご承認を頂きました。①では、寄付金について83名の方にご賛同を頂いたこと、コロナ禍で延期となっていた全国大会が5年ぶりに関東支部主催で開催されたことなどが、②では、今回交代される関東支部の吉井支部長と宇佐美新支部長からのご挨拶、③では、会費納入率の向上と寄付金へのご賛同を頂きたい旨のお願いなどがありました。

見学会の後、17時から総会が大学24号館2階

教室で行われ、小野会長のご挨拶、井戸田本部長から評議員会にて承認された議案が報告されました。

続いて懇親会が学生会館1階にて開催され、渡辺誠一様(S36卒)が乾杯のご発声をされ開宴、北川先生から大学の近況報告、校歌と建築科歌の合唱、川端寛文様(S46卒)の中締めにてお開きとなり、半日にわたる行事を無事終えることができました。



□春の見学会

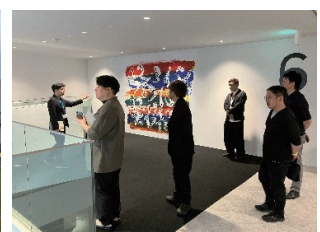
中野 祐輔 (H27) 愛知県庁

5月17日(土)、総会にあわせて、2025年度光鯨会春の見学会を開催しました。今回は、鶴舞公園に隣接する、日本最大級のオープンイノベーション拠点「STATION Ai」の見学で、46名と多くの方にご参加いただきました。

見学に先立ち、建設に携わった関係者の方々に施設のご説明をいただきました。まず名古屋工業大学大学院の伊藤孝紀先生から、「Rainbow color」「Autonomous City」という施設コンセプトや施設内に設置されたアート作品について、続いて(株)石本建築事務所のご担当者様から、1階から6階まで総延長1kmにおよぶ螺旋状のスロープで構成する設計について、最後に(株)フジタのご担当者様からは、複雑な設計、工期、施工エリアという厳しい

条件を受けた、BIMやARといったデジタル技術の活用について、それぞれ解説いただきました。

見学はSTATION Ai(株)の大澤部長及び各講師のご案内のもと、普段は見られない会員専用ゾーンも含め見学させていただきました。見学の際は参加者の方々から活発に質問も出ており、非常に充実した内容となりました。



□関東支部だより

宇佐美 徹 (H3) (株)竹中工務店

関東支部では、ゼネコン 5 社持ち回りで支部役員会、総会等の幹事を行っています。例年ですと、今年度と来年度は竹中工務店が幹事会社となるのですが、時代なのか関東勤務の卒業生が少なく、1 社単独での幹事運営が難しくなりました。また、次期幹事会社の鹿島建設でも同様の状況が発生してしまっていて、令和 7～10 年度の 4 年間で竹中工務店と鹿島建設の JV で幹事運営をすることになりました。令和 7～8 年度は私が関東支部長を務め、令和 9～10 年度は副支部長の工藤さんが支部長をなされると思います。よろしくお願いいたします。

私は昭和 62 年 (1987 年) の入学で、会長の小野徹郎先生の研究室に所属していました。当時は本部の学生幹事を務めておりまして、幹事の仕事も大変だなと思っておりましたが、まさか自分が関東支部長をやることになるとは思ってもありませんでした。

平成 5 年に竹中工務店に入社し、30 年以上技術開発の業務に携わっています。構造分野が専門ですが、大きなプロジェクトの実験を手掛

けてきました。名古屋であれば名駅のミッドランドスクエアや建替えが進んでませんが名古屋城、大阪であればあべのハルカス、最近であれば万博等に関わってきました。この他にもあるのですが、多くのプロジェクトへの参画が私の研究員としてのかけがえのない財産になっております。

さて関東支部総会ですが、本年は 11 月 28 日 (金) に例年どおり大手町サンケイプラザで開催予定です。本年は鈴木禎次賞が実施されるそうなので総会でのトピックにしたいと考えております。新入会員をはじめ皆様の積極的な参加をお待ちしております。

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

(株)竹中工務店 (080-2454-9012)

関東支部長 宇佐美徹 (H3)、事務局 山崎賢二 (H13)

副支部長 鈴木孝彦 (S59)、工藤利昭 (S61)



□関西支部だより

神澤 宏明 (S58) (株)鴻池組

関西支部長を拝命しております神澤です。関西支部の令和 6 年度後半からの活動内容と本年度の支部総会予定について紹介します。

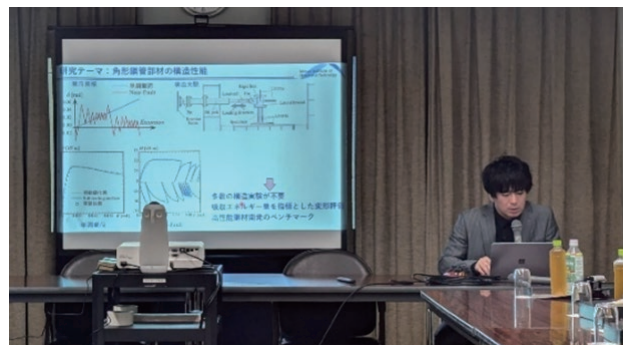
2/7 には、本年度の第一回の幹事会とミニ講演会を開催しました。幹事会では、支部活動の活性化のための会員名簿の充実についてなどの議論が交わされました。ミニ講演会では、大阪万博を題材に、鴻池組の北川氏 (H29 卒) より、『EXPO ナショナルデーホールー敷地特有の設計・施工および DXー』と題し、現場に導入された 4 足歩行ロボットなどについての話題提供がありました。

4/4 の第二回幹事会では、支部総会について議論を行うと共に、積水ハウスの土方氏 (H08 卒) より、『海外戸建て事業における構造技術の革新 - 米国・ニュージーランドと比較した日本の建物の耐震性』をテーマに、海外市場を舞台に日本式の木造軸組工法を基にした技術開発など、ダイナミックな話題を提供していただきました。

6/6 の第三回幹事会では、母校で学位を取得

された後、昨年 10 月に東京科学大学の准教授に着任された三井和也先生 (H24 卒) をお招きしました。『弾性座屈耐力を用いた指標による塑性域における構造性能の推定』をテーマに、薄板部材の塑性域での構造性能を予測するための新たな指標についてなど、最新の研究テーマについてのお話を伺いました。

最後に、本年度の関西支部総会は 10/18 開催予定で、終了直後となる万博会場を、対岸から眺めることのできる会場を設定しました。会員皆様のご来訪をお待ちしております。



講演する三井先生 (6/6: 中央電気倶楽部)